

【渋川市】  
校務DX計画

1. クラウドサービスの活用

渋川市では、これまで、校内の職員会議等において校務用サーバに保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムを活用して学校間で資料等を共有したりしてきた。また、市教育委員会主催の研修の一部をオンデマンド視聴できるようにし、教職員が時間や場所を選ばずに受講できるようにした。さらに、研修会では授業支援ソフトの共同編集機能等を活用して意見交換を行ったり、アンケートフォームを活用したりする等、研修効果の向上や業務の効率化を図ってきた。

しかし、クラウドサービスの利用については、学校間で活用に差が見られる。活用が進んでいない学校の現状と課題を把握するとともに、好事例や先進的な取組等に関する情報を発信し、校務のDX化が推進されるように支援する。

2. FAXの利用及び押印の見直し

渋川市では、行政ネットワークや校務支援システムを活用し、「学校－学校間」「市教育委員会－学校間」の文書や資料の送付、データの授受等を行っている。また、教職員1人1人にGoogle Workspace for Educationのメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用している。しかし、事業者との連絡や慣例的にFAXを使用している場合も少なくない。

押印については、「学校－学校間」「市教育委員会－学校間」において、個人情報などの機微な情報を含む文章等への押印を求めることがある。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時等、FAXの方が電子メール等よりも効率的な場合を除き、FAXの原則廃止に向けて、関係機関及び学校とやり取りのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しの依頼をする等、継続的に働きかけていく。

また、教育委員会内で押印を求めている業務や書類の有無と見直しの可否、見直しができない場合の理由について、現状把握を行うとともに、機微な情報を取り扱う場合を除き、公印省略で取り扱う等の押印ルールの見直しを図っていく。

3. ペーパーレス化の推進

これまで、校内の職員会議等において校務用サーバに保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムを活用して学校間で資料等を共有したりすることでペーパーレス化を進めてきた。また、Google Workspace for Educationや保護者連絡アプリの導入により、児童生徒の欠席連絡、学校から保護者への通信の配信、デジタルドリルを活用した宿題等、ペーパーレス化をさらに進めてきている。

今後は、学校間をまたぐ会議や研修等においても、1人1台端末及びGoogle Workspace for Educationをはじめとするクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進していく。

#### 4. 次世代型校務支援システムの導入

渋川市では、平成28年度から校務支援システムを導入しており、教務系（成績処理、出欠管理等）、保健系（健康診断票、保健日誌等）、学籍系（指導要領等）などの幅広い業務で利用している。オンプレミス型で運用しており、自宅や出張先等からは校務支援システムを利用できない状態にある。

また、校務系のネットワークと児童生徒が教育活動で利用する学習系のネットワークは分離している。文部科学省が推奨する校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実現については、今後検討していく必要がある。

現在、渋川市で導入している校務支援システムは、令和8年度末まで運用する予定となっている。今後は、群馬県が行っている次世代型校務支援システム共同調達検討部会の内容を踏まえつつ、次世代の校務DXを実現するシステムの導入に向けて検討を進めていく。